

富山紡績工場跡地開発計画に関する意見交換会 会議録

日時：令和6年12月18日（水）19:00～21:00

場所：福野体育館 第1会議室

当局 それでは、ただいまより、富山紡績工場跡地開発計画に関する意見交換会を開催させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。それでは、説明の前に、南砺市役所政策推進課課長から、一言ご挨拶させていただきます。

課長 皆さん、こんばんは。今日はどうぞよろしくお願いいたします。本日は、足元の悪い中、一日のお疲れのところ、このようにたくさんの方に集まっておいただきまして、誠にありがとうございます。本日は部屋が非常に狭くて申し訳ございません。現在の富山紡績工場跡地の開発について、うまく住民の皆様方に検討状況など伝えられておりませんので、大変申し訳ございません。お集まりの方の中には、平成29年のまちづくり検討委員会の提言に携わっていただいた方や、その後のORACCHA構想に携わっていただいた方、そして現在の検討に携わっていただいている方など、それぞれのご存じのところから、どうなっているんだと、ご心配をおかけしていると思っております。本日は、これまでの経緯を改めてご説明させていただいて、現在の検討状況についても詳細にご説明し、意見交換をさせていただきたいと考えております。特に、今回、開発事業者には、自分たちで資金を投資して、その跡地開発だけでなく、将来的な周辺のエリアについても住みよさ、あるいは価値の向上につなげたいという気持ちで検討も行っておりまして、今回そういった提案もごございますので、現在検討を進めている案につきまして、ぜひお聞きいただいでご意見いただきたいと思っております。時間の限りのある中でございますが、どうぞ本日はよろしくお願いいたします。

当局 はい、それでは説明させていただきたいと思っておりますけれども、お手元の方にアンケートの紙も1枚ご用意させていただいております。意見交換もさせていただきますが、それで十分に意見を出せていない場合がありますら、ぜひお書きになってお渡しいただくか、QRコードの方を読み取っていただいで、携帯とかパソコンの方でもこちらの方に送っていただけるようになっておりますので、どうかよろしくお願いいたします。それでは説明の方をさせていただきたいと思っておりますが、資料の方にあります1番、2番は市役所から、それと事業者さんの方からの説明を続けてさせていただいて、その後、意見交換とさせていただきますので、どうかよろしくお願いいたします。それでは早速説明の方をさせていただきます。

課長 それでは最初、こちらからですね、これまでの経緯、基本構想、それから実現手法の見直しとその理由、あるいは民間指導型の公民連携、PPPと言われておりますもの、公募によりますプロジェクトチームの選定と、こういった一連の流れにつきまして、まずは20分ほどで説明をさせていただきたいと思っております。経緯につきましては、簡単に資料の中でまとめておりますが、詳細は次のページからお話をさせていただきたいと思っております。平成26年に今回の事業用地を行政で取得しまして、それから今度は庁舎跡地利用の検討に、まちづくり検討会議が平成29年に設置されまして、その後、平成30年に今の事業につながるPPPの手法活用ということでございまして、そういうような先進的な内容を含めた複合施設整備などの提案がございました。その後に、リノベーションスクールなどの取り組みを経まして、令和3年にはORACCHAプロジェクト基本構想が提案されたということでございます。次のページをご覧ください。これが、まずは平成30年にご提案いただきました、福野まちづくり検討会議からの提案ということでございまして、複合

施設の建設というようなことのある中で、PPP というような手法を取り組むということでもございましたり、様々なご提案があったということでもございます。

それから、令和になりました、今度は ORACCHA プロジェクトの基本構想ということでもございます。ここでは、2つの大きな話としまして、幸せな広場による現代版の町立てということ、それから、民間主導型の PPP で進めるということの方針ということで、これもご提案をいただいたことでもございまして、こういう形で進めさせていただきたいということで、これは平成30年度の提案にもありました PPP の手法を導入して事業化を進めるということと公共施設を含む複合施設、あるいは多目的な広場で集いの場、にぎわいを創出する提案というものがあり、その機能として資料にあるようなことをまとめられました。ここには、単なる公共施設というものを作るわけではないということで、様々な公共的役割を含む複合施設、あるいは多目的に活用できる広場で福野の資源を生かすということ、そして福野の課題を克服し、集いの場を創出するということでもございます。主な機能としましては、提案をいただいたことでは、広場として集い、憩い、始まりの広場というもの、それから、複合施設、それと集合住宅、こういったようにまとめられて提案をされております。

続けてですね、民間の、これを実現するには民間の事業主体というのを募集する必要がありましたので、令和4年度に入りまして、こういった事業の実現に向けて事業検討の策定に取り掛かりました。

今、こちらのページにもございますが、その結果としては、事業の実施に当たりまして、まずは市からの5億円の助成金と書いてございますが、それと金融機関からの融資として7億円の確保に加えて、何とか地元資本で4億円を準備してもらえないかというようなこと、あるいは広場の整備、ランニングコストは行政が負担するというのもしないと、なかなか事業としては成立しないというような、というような結果が出まして、これは地域にとりましても、行政にとりましても非常に負担が重い計画でありまして、将来につながりにくいということで、実施は困難であろうという判断をいたしました。

この判断に至ったことから、次にこちらの資料にもございますように、南砺市の検証結果としましては事業化は困難と、地域の負担、市の負担が大きすぎるという中で、改めて令和5年度に、このまちづくり検討委員会を設置し、今後の進め方について協議をしましてまいりましたということです。

今回は事業化は困難という判断でもございましたので、今後の進め方について協議をさせていただきましたところ、ORACCHA 構想の理念というものを何とか形にできないかということで、まずは市民センター、交流センター、会議室というものは整備していきたいということ。公民連携の手法を用いて事業化をしていきたいということ、それから地域の意見を取り入れるという形で、今度は実現手法の見直しとしまして、先ほどの提案の際には事業主体というのは決まっておらず、今提案の中から事業性というのを確認してきたわけなんですけど、今回はまず事業実施者、事業実施主体となる方を決めまして、その方とともに持続可能な計画を策定しようということに、手法の変換をしたところでもございます。

それで、平成30年の提案からずっと引き継がれております公民連携の手法につきましては、ここに書いてございますが、行政と民間が連携して地域の課題へ対応する事業を行う仕組みという

こととさせていただきます。メリットとしては、民間の企画力、アイデアを生かしたり、稼ぐ力というところを生かして、行政とうまく連携して、地域住民にとってより良い環境を生み出すというところをメリットと考えておりました、デメリットとしては、当然、民間経営のため、倒産のリスクがあるというところにつきましては、今回、本来ですと融資を受ける事業になりますので、その段階では金融機関の事業審査が入るわけとさせていただきますが、今回はさらに行政側でも事業評価委員会というのを設置させていただいて、別の金融機関により事業をチェックするというのをダブルでやらせていただくことにしたいなというふうに考えております。

それから今年度に入りまして、公募する際の条件とか、選定の条件ということを整理しております。まずは、ORACCHA のコンセプトを継承するというので、例えば、人々の幸せにつながる広場ということとございましたり、公民連携で今の申し上げたような民間稼ぐ力、自由なアイデアをうまく活用することで、地域にとっても利益のある取り組み、あるいは行政にとりましても、維持管理などを含めた節減につながる、あるいはその節減したものを住民の皆さんに改めて別のサービスとして提供できると、そういったようなこととございましたり、共同事業体自らが当該事業の投資を行うということとしたり、あるいは行政の機能確保、民間事業者の誘致ということと実現可能な持続可能な実施計画を策定するというようなことを条件として、今回事業者の選定もさせていただきます。

この時に一つ条件とさせていただいたのは、ORACCHA 構想からの流れを組みまして、プロポーザルの条件としては、福野市民センター、福野中部交流センター、それから会議室、こういったものは複合施設として入れたいということと条件とさせていただきます。こういった中で選定した事業者としましては、資料のとおりでございます。結果的にはですね、地元の若手自らが、多分この事業としては数億円の自分たちの資金といたしますか、借入れをしてやっていくということになるという、そういうある意味、覚悟を持っての提案ということとさせていただきます。

ちなみにですね、公募時のプロジェクトとしましては、次のページにございまして、これを作るということではなしにですね、広場を生かしたにぎわい作りとか、住民の場作り、それらを持続可能にするための稼ぐ事業という、そういった考え方というのは、ORACCHA 構想を意識されておりますし、先ほど見ていただいた、プロジェクトチームのメンバー、専門家の実績も含めまして、事業計画策定ができるというふうに判断をさせていただきます。

現在のゾーニングにつきましては、向かって左側が ORACCHA 構想のときの際の提案の内容で、それが今最新の状況でこの後ご説明していただくわけとさせていただきますが、今はこういったような形で配置が変わったというものでございますので、こういうような計画が進んでいるというところとさせていただきます。とにかく投資をする気持ちを持って今回のプロジェクトへ当たっておられますので、この後引き続き事業者の方から提案をしていただきますので、ぜひ聞いていただければと思います。よろしくお願ひします。

事業者 A みなさんこんばんは。今ほど事務局からも紹介いただきましたが、富山紡績工場跡地の開発計画を進めるために、合同会社トミノという会社を立ち上げまして、プロポーザルに応募させていただきました。事業者 A です。事業者 B です。今日はプロジェクトチームから、キタバランドス

ケープさんとアーキシップスタジオさんにお越しいただいておりますので、早速であります。今回の計画の進行状況を説明させていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

事業者 C 皆さんこんばんは。私、キタバランドスケープの事業者 C と申します。南砺市さんの方から、今、経緯について、説明があったと思ひますが、私たちプロジェクトチームの方から詳細の計画についてご説明させていただきたいと思ひます。広場につきましては私、事業者 C の方から、建築につきましては、アーキシップスタジオの事業者 D の方から説明させていただきたいと思ひます。画面に映し出されていますが、紡績工場跡地と福野の街をつなげるといふような画面になっているかと思ひます。この計画地になるんですけれども、この計画地ができることによつて、そこだけじゃなくて、福野の街全体が活気づくような街づくりをしていきたいなと思ひています。福野駅ですとか、神明社とか、福野の街には面白いところがたくさんありますので、そういったところをつなげていきたいなと思ひています。

今つて、なかなか街の中で人とすれ違ふこともちょっとあまりないなと、この場所を歩いていて思ひています。車社会になっているといふところもあるのと、あと異常気象で夏は暑しい、冬はちょっと雪が多くて、なかなか歩かないよねといふところがあるかと思ひます。ORACCHA 構想の中でも健康づくり、高齢者の健康づくりといふのが大きな問題になっています。なので皆さんもそうだと思ひますけれども、健康増進のため、あちこち歩きたくなる街づくりといふのを行つて、消費活動をたくさんしてもらふような街を、この福野の街全体でまずはやっていくことが大事なんではないかなと思ひています。

私たちも敷地の周りですとか、福野の街をたくさん歩きました。その時に福野の駅から計画地に向かつて歩いていきますと、魅力的な風景が広がっているんですよね。皆さんにとってはもう当たり前前の風景なのかもしれないんですけれども、今この写真で示したような、皆さんには見慣れた風景なんだろうが、石積みの塀ですとか水路ですね、あと神社といつた福野らしい景観、そういったものが、やはり私たちには魅力的だなといふことがすごく感じられます。この福野の歴史の街並みを生かしたエリアリノベーションと書いているんですけれども、先ほども話したように、こういったことを全部計画地ができることによつて周りに対する波及効果のようなものを起こしていきたいなと思ひています。

どんな場所を計画するか、皆さんこちら、今まで検討会議とかでもいろいろ質問とかもありましたが、とても興味あるかと思ひます。この計画地といふのは、2年後、3年後、魅力的な場所であるといふだけじゃなくて、10年後、20年後、皆さんのお子さんや娘さんですとか、あとお孫さんですとか、そういった人たちがこの場所がやっぱり誇れるなつていふ場所を作りたいと思ひています。まず一番大事なのがですね、誰でも気軽に来れる場所であるといふこと、そこは本当にバリアフリーでそういった場所を作つていかなければいけないなと思ひています。まず大きな芝生広場ですね、あと子どもの遊び場、公共施設、皆さん興味あると思ひますが、公共施設ありますが、こういった配置を行つています。

それだけだとなかなか人つて行きたいなとか、ここを目的地にするといふことがないかなと思ひます。なので私たちがやるべきこと、やらなくてはいけないといふことは今まで見たことがない場作りといふのをしていかななくてはいけないなと思ひています。その時に大事になつてくるのが、やっぱり、この街に溢れている自然の力ですね。水、風、土、空気、そういった自然のパワーを使

って、パワーって言ったらちょっと嘘くさくなっちゃうんですけども、そういったものを使って、この空間を構成していくことを考えています。

また、ただの広場だけではなくて、この場所というのはしっかりと稼ぐ場所、稼ぐ場ではなくてはいけないなということで、いろいろ後からも説明があるかと思いますが、そういった配置を考えています。多くの人を呼び、また何か誰かと出会える場を計画すること、下に書いておりますが、昔のように多くの人が、昔の南砺市の福野のような人が行き交う活気のある場所を作ることを目指します。全体計画図を見ていきましょう。

特徴としては、まず皆さんの目に入ってくる場所として、大きなこの芝生広場があるかと思えます。縦に約100m、横に50mぐらいの大きなすり鉢状の広場になっています。この広場というのは、周辺の広場ですとか、入口広場が何か所かあるんですけども、ここと、あとこの施設ですね、行政施設と民間施設を計画していきますが、こういったところから広場がすごく見えやすい、どこからでも見えやすい空間になります。基本設計の中で詰めていかななくてはいけないところなんですけれども、雨水排水とか皆さんが気になる場所については、できるだけ自然勾配で排水などをできるように工夫していきたいと考えています。芝生広場の周囲では散策路があります。この散策路の周りに入口広場を設けています。

こちら辺は健康づくりの場として皆さんにぜひいっぱい使っていただきたいなと思っているんですけども、後で説明しますが、散歩ですとか、そういった場所ですとか、ラジオ体操の場所にすとか、いろんな使い方ができる場になります。こちらの南側の入口広場、こちらはマルシェやキッチンカーなどを置いたりして、駅からも向かってくるところこちら側が一番顔となる場所になるので、憩いの場を作っていければなと思っています。あとその隣に、子どもの遊び場があります。こちらは自然の起伏を作りまして、少し盛土や切土をしてあげて、子どもたちが遊んで楽しい場所を作ろうかなと考えています。それも夏だけじゃなくて、冬はそりすべりができたり、そういった場所を設けたいなと考えています。あと南側から進んでいきますと、奥の方に向かって市民センター、中部交流センター、トイレなどがある公共施設があります。その隣に駐車場がありますが、施設に近いところ、出入口の付近には車椅子対応の駐車場を設けて、バリアフリーにも対応した作りをしたいと考えています。

続きまして、イメージが湧きやすいようにスケッチを描いているんですけども、先ほどの南側の入口広場ですね、こちら、週末のマルシェですとか、朝市、キッチンカー、屋台など、にぎわいが起こる場所として、今イメージ写真にあるような、こういった朝だけじゃなくて、昼も夜もイベントなどの時に使う場所ができたらいかなと考えています。

次が、こちらですね、子どもの遊び場ですね。先ほどの平面図からだちょっとわかりづらいなと思うので、絵を描いているんですけども、こういった自然の土を盛って、築山などを設け、ちょっとステップなどを設けながら、子どもたちと遊べるような場所を作っていきたいなと思っています。こういうイメージ写真のような感じで、小さい子が遊べるような場所を作っていきたいなと思っています。すみません、皆さんごめんなさい。資料と順番が、説明の都合で変わってしまいました。申し訳ないです。

次、こちらはすり鉢状の芝居広場のお話をしましたけれども、これ普段は風を感じながらと書いているんですけども、みんなのびのびとここで大人も子どもも遊んだりゆっくりできるような

広場を考えています。こういった段上のベンチにもなるような空間を設けて、遊んだりもできるし休憩もできるような場所にしたいと思っています。

夜になると、夕方ですね、例えばこういう映画祭ですとか音楽祭、こういった場所になって、日中だけじゃなくて、夕方から夜も楽しめるような場所を作っていきたいなと思っています。福野のこの場所って星が綺麗なんですよね。その時にやっぱりそういった場所も、例えば観光客の方ですとか、ここに来た時に、例えば火を感じる場所と合わせて、夜空を見ながら、この南砺の自然の魅力を存分に楽しめる場所ができればいいなと思って、今計画しているところです。

計画地を1日楽しむこと、どのような活用ができるかを表しています。朝は散歩やジョギング、健康づくりができる場所になって、昼になるとゴロゴロじゃないですけど、大人は休息したり、また施設ができますので、その中でテレワークですとかワーケーション、そういったこともできる場所になります。夜になると、先ほどもお伝えしたように映画祭の開催ですとか、日々の中で語らい、夜間のコミュニティも作っていけたらいいかなと考えています。以上です。ありがとうございます。建築の説明に移ります。

事業者 D ここから私、事業者 D から建築の話を中心に説明させていただきたいと思います。今、事業者 C から話がありましたが、この計画というのは市民の皆様向けの計画でもありますし、市民ではない外の人のための計画でもあるという二面性があります。もしかしたら外国の人にも向けた話かもしれません。ですので、多面的なんですね。一方向から見たらこうですけど、反対から見たらこうだったりということが複合しています。さらにこれからお話しする機能、例えば会議室ですとか、市民センター、中部交流センターといったものも機能の複合体です。ですので非常に複雑です。そのことを我々はある時間の中で、ある予算の中で、企業として成り立つ範囲でどう着地させるかというところを、今一生懸命考えています。

ただ、まだ結論は出ていません。今日はある方向性が見えてきておりますので、そのことを皆さんにお伝えして、この時点で感じられたこと、ご要望というのを聞いて、全部が全部反映できるわけではないと思いますが、これからの計画にできるだけ付け足していくというふうにしたいと思ってお話しします。

最初に先ほども出ていた、資料は今日来るときに事業者 C と私が話しまして、この順番の方がもっと分かりやすいだろうということで入れ替えてしまいました。印刷は先にしたので、ちょっと入れ違ってしまっています。なので、説明はできるだけ画面で見ただいて、帰っていただいた後、思い返す取り資料を使っただけだとありがたいと思います。普段はですね、先ほどから言っている広場を囲むように建築が配置してあります。これが今、複合施設とこれまで呼ばれてきた公共機能を主に担っている建物です。今、こういうチラッと見えているドーナツのような建物、これが民間収益施設で、まだこれ内容はっきり決まっていません。現時点では飲食機能ですとか宿泊の機能といったものをここに入れて、ここを運用していくのに必要なお金を稼ぎ出すということを考えて企画を作っているところです。

建物としては少しカーブしているんですが、幅がだいたい4.5mの室内と両側に2mぐらいに庇がついているような非常に単純な建物です。それが約60mぐらいに渡って伸びているような建物としています。こちら側は沿道になっている。それも木造です。地元の木をできるだけ使って建物を作るということを考えています。

ちょっと小さくて見にくいと思いますので、こちらの建物を拡大したのがこれです。まず部屋の構成がどうなっているかと言いますと、下からですね、これ入口広場という先ほどの入口です。その次に窓口機能の行政機能が入っているエリアを設定しています。これが大体今 140 平米ぐらい設定にしております。次に中部交流センターという形で 70 平米、これはご要望の通りですね、一旦入れています。その先に共用のトイレを配置するというふうに組み合わせています。これ全て建物幅 4.5m で、これ今ちょっとテープを貼って見たんですけど、見えますかね。ちょっと立っただくと見える。ここからですね、4.5m。これぐらいの部屋の幅がずっと続いていくような感じになっています。これ一見細い建物ってみなさんも思われたんじゃないですかね。これは細い建物ではなくて、長い建物なんです。

長さに秘密がありまして、長くすることで広場とどこもかしこも向き合えるということを大事にしています。これは皆さん使われると広場に対してにぎわいがあるまま建物の景色を作っていくようなことになるんですが、そのことによってぎゅうぎゅうで使っていたらうちはもちろんにぎわっているように見えるんですけど、ぽつぽつと人がいるときにも、人がいるなという気配が伝わるような状況を作りたくて、こういう配置をしています。どこにどういう壁が来るかというのは、これから基本設計というのを始めますので、その中でいろんな議論をしながら、意見をいただきながら調整していこうと思っていますので、これは一旦の設定です。

守っているのは、この 260 m² という全体の床面積の合計値。これはそのまま平米いくらという形で決まってくるので、今、市の方と、チームの方で話して、実際建てられる建設コスト、その後発生する家賃というものをバランスで、大体 80 坪ぐらいの建物であれば、今の物価の中でも実現できるだろうという想定のもとに考えています。

ですので、実は先ほど要項で募集の条件として書かれていた会議室というのは入っていないんです。会議室をつけると、とんでもない床面積になって、工事費も、あそこでは坪 80 万円と書いてあったんですけども、今そんなコストは絶対建てられないです。大体 200 万とか 300 万とか、そういう水準に物価が上がってしまっているので、なかなかそのままは実現できないんです。これまでの協議会の皆さんとの話を聞きながら、会議室って周りにもあるし、なくてもいいんじゃないかなというのがチラッと出ていたので、一旦これを外した形でバランスさせたという感じです。

この下の方に、軒下空間、多目的ピロティ、聞き慣れない言葉が並んでいると思うんですが、この建物は両側に柱だけが伸びていっているんですね。屋根だけがついています。これはここで止めてもいいですし、もうちょっと伸ばしてもいいんですけども、将来的にそこを部屋に変えたり、あるいはちょっとこれを減らしておいたりということで、伸び縮みができるような仕掛けがいいんじゃないかなと。

おそらくこの 1 年、2 年の間に作れる建物というのは、コスト側で頭打ちになって、非常に限られたものにならざるを得ない。ただ、これがうまくいって、事業としても成立するということができれば、もっともっと床を増やしていくということもあり得ると思うんです。あるいは、20 年後、10 年後ぐらいですかね、行政の窓口機能って本当にいるの？という話もあって、コンビニで全部取れるじゃないかとなっていけば、ここの面積そんなになってもよくなるんですね。そうすると、じゃあこの中部交流センターをもうちょっと広げていこうか、あるいは新しい機能を入れようか、お店をやろうかということも十分に起こり得る。

なので、建物はハードとしてできるんですけども、どんどんどんどん衣替えするように変えていけるようなもののほうがいいんじゃないかということで、こういう考えをしています。建物の入り口はですね、いろんなところにありまして、この横からも入れます。ただ、だいたいこういった建物を作ると、どこから入っていいかわからないというクレームというか、案内のところに皆さんが聞きに来て困るという話になりますので、一応構えとしてはここをメインの入り口にしようというふうに考えていて、先ほど説明あった駐車場ですね。駐車場に屋根をつけまして、その下に雨がかりにならずに入れる場所を作っている。その一番使いやすいいところには車椅子用の2台を取っているという計画にしています。

ちょっと概念的な話になって申し訳ないんですけども、先ほど私が建物はこういう考えだと申し上げたことを、絵になるとこういうことなんです。広場というのは一応前提になっているんですが、そこに今までの考え方の建物、この体育館もそうですけれども、真ん中に廊下があって部屋が回りについている。一番合理的ではありますが、外の広場との接点が限られてくるんですね。今回同じ床面積でも少しく長くすることによって広場と色々な接点を持つてる計画の方が全体としてはいいんじゃないかということを考えました。

この後絵が出てきますけど、細くしてかつ透明性が高く、要するにガラスが結構入っているところ、あるいは扉が開けられるところですね。あと広場が囲まれている、広場というのは不思議なもので、同じ広さで周りに何も無いと思うとただの空き地なんです。その周りに囲みを作ると全て広場として体感できるということになりますので、そういった意味で建物を使ったらどうかと考えました。あと先ほどお話ししたような、にぎわいが見えるような企画はいいんじゃないかということがこの計画で思っているところです。

長くするとき、この廊下、一般的な建物の廊下を外側に出しています。これが縁側状になっていまして、屋根だけは作ってある。なのでここを作るのにお金がほかよりちょっと安くできるわけです。その分、浮いたものを室内化するコストに充てたらどうかということで、廊下のない建物を作ろうというのがもう一つのポイントです。先ほど申し上げたような限られたコストの中で、できるだけ大きな面積を作るというための計画でもあります。

全体の絵を見せる前にこれをお見せしても、ちょっと分かりにくいかもしれないんですが、この建物は木造です。そして基本的には全部同じフレームで骨組みができています。その骨組みがどんどん並んでいくことによって建物が決まってくる。そこにガラスをつけたり、壁をつけたり、屋根をつけたり、あるいは収納、更衣室といったような形で、必要なものをどんどん付け足していけるような作り方です。これは本来建物の考え方というのはこのタイミングではあまりはっきり出てこないと思うんです。

もう少しイメージとかスケッチ、先ほど事業者Cがお見せしたような、こんなことができたらいいなというものを描くんですが、もうちょっと具体的にやっていかないとですね、今、図面を全部作ってきた、最後見積もりしてお金が合わなくて最初に繰り出しに戻るということがよく起こるので、この辺の確実に実現できる具体的な計画でイメージを皆さんと共有していくということが必要だと思ってこれを書いています。ちょっと後でまたこれを振り返りできれば。あと、カスタマイズしたくなる、改造したくなる。皆さんの使い方に合わせて、例えば屋根を伸ばしたり、テン

トをつけたり、あるいは壁に変えたりといったことがいつでもできる、やりやすいという雰囲気、機能的にも雰囲気も両方あるようなものを作りたい。

ここから具体的なイメージで、この絵もですね、このタイミングでお見せするものではないと思います。ただ、図面ですとか、あるいは絵のようなスケッチだと、なかなか大きさですとか、使い方のイメージができにくいだろうということで、わざと具体的に書いています。なので、みんな仮なんですけど、机ももちろんこの辺になるかわからないんですけども、例えば今の図面のまま実現するとういうことが起こります、として見てください。

先ほど申し上げた 4.5m というのはこの柱と柱の幅で、これがずっと続いているわけです。これは仮に市民センターを作ればこうなるんじゃないかというイメージで、カウンターがあって、室務室、ここに受付や窓口機能があって、その外には公園の広場を楽しんでいるような、ごめんなさい、公園って言っちゃいましたけど、公園の広場ですね。はい、次お願いします。

その部分でできている建物って外から見るとこういうことになっているわけですね。これも一番奥はトイレで、ここに次の部屋があって、その次の部屋があってという形で作っているんですが、全体像としてはこういうイメージになっているわけです。右側にちょっと緑に見えるというのは先ほど出ていたすり鉢状の広場ですね。

これを少し引いて全体を見るとこういう形。これ南側の入り口、この右下側のキープランという、どこを見ているかを示しているのですが、赤い丸のところに立っているつもりで考えてください。この辺りから見ると全体はこういう形で 100m 広がっていて、そこの横に沿うように複合施設が立っているという形です。次に行きます。これは同じような、少し東側から見るとこういう形です。

これが西側の道路から駐車場越しに見た建物で、先ほど仮にここを正面玄関としましょうというのをしたところで、これ庇です。ここに車椅子のマスが 2 つあって、車を降りたらそのまま建物に入れるというようにしています。この辺に行政機能が入っているので、これが 4.5m です。

中部交流センターの方のイメージも書いています。この部屋は幅 4.5m で、だいたい 5.4m くらいの長さに区切れるようになっています。これ今、区切ったりしているんですが、次の絵にさせていただくと、開けるとこういう風になります。こういった可動間仕切りと言われるものですとか、パーテーションというものを使ったり。こちら側のサッシも空いているんです。夏も暑いですから、なかなか開け放して自然の空気を使えるという時期が少なくなっているんですが、気候のいい時期には窓を開け放って、外と一体にして使えるようなことも考えています。

そうしますと、先ほどから申し上げたように、4.5m に 2m の庇で 6.5m の空間があって、その先にさらに遊歩道があって広場があるという、非常に大きな空間を一体的に使えるというふうになっています。ちょうど今、一日中使える場所にしたいという話をしたんですが、四季を通じても使えた方がいいだろうということで考えています。

これは少しわかりやすいかなと思って作って見たんですが、これが屋根がついている状態で、次のページにしてください。屋根を取るとこういうことになるかもしれません。先ほどから申し上げているこの部屋がついていて、この壁はどこに作ってもいいわけです。このトイレとかは全部囲まれることになるかと思うんですが、こういうのはなかなか動かしにくくなるんですが、これの機能というのは自由に組み替えができる。

ここまでで一応説明を終わります。あとは、いろいろなお話を伺いながら。追加のご説明などしたいと思います。

当局 ありがとうございます。それでは今説明いただいた計画案についてのご意見をいろいろと、いただきたいと思います。多くの方にいろいろな意見を伺いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

参加者 すみません、イメージ図の全景をちょっと見せてもらえますか。今、車が見えているのが県道ですね。すぐ木が植えてあって、そこは盛土になるわけですね。2m程度の。反対側の建屋からはにぎわいは見えるけれども、県道のところからはにぎわいというものは見えないと。それは不正に侵入するのを防ぐとか、防犯上の意味合いで盛土的なことを考えておられるのか、そのあたりはどうなんでしょうか。

事業者D 防犯にはならないと思います。どちらかという、さっきの絵のほうが分かりやすいんですけど、今このエリアって雑多だと思うんですよ。いろんな時代のいろんなものがバラバラにある。その中で一つの景観を作っていくためには、この場所を一回囲みたい。だから目線を一旦切るという意味で、樹木あるいはマウンドとって盛土ですね。ただ、壁のようになったらうかがい知れないというのもちょっとやりすぎだと思っていて、例えば車で通ったときには、なんとなく木の間から何かいるな、あるなという、覗いてみたくなるような心理を狙っていきたいなと思っております。

参加者 はい、ありがとうございます。

参加者 ただいまの話聞いていて、特に公園の話なんですけどね、公園を作るのが当たり前だという前提でお話されていますよね。それはね、おかしいんだろうと思うんですよ。根底はね、根本的な論点が隠されている。この全体、この広い公園を作るべきなのか、もっと小さい広場でいいのかね、そのあたりをもう一回議論すべきだろう。これだけたくさんの住民が来ている。コンサルの方は一部の意見しか聞いてないから作るんだろうと思ってるかもしれないけれども、住民皆さんがね、こんなに大きな公園、例えばさっき建物の話されたときに、会議室はお金がないからできないと話されましたよね。それは多分広場にお金がかかるからだろうと思うんですよ。そのあたり、果たして本当にそれだけ広い広場が必要なのかどうかというところをまず私は根本的な問題点として議論したらどうかと思います。以上です。

課長 当然、もともとの入り口として、広場を中心とした町立てというのがありますが、その広さは条件として出ておりませんので、今回のご提案の中で、これぐらいの広場の中で皆さんに集う場所というような形を考えていただく提案としてはこういう形ということでございますので、ご意見をいただければいいと思います。例えばこれからご発言されるときに、こういうことに対してちょっと感想をいただきながらご意見いただければ助かります。改めて、そういうことをご意見をいただきながら、検討委員会の中でもお話をさせていただきたいと思います。

参加者 私は公園はいらないと思います。他にも公園はありますから。先ほど、会議室の話でお金がかかるということもあるんだけど、会議ができる場所は他にもいくつかあるとおっしゃいましたけれども、それはどこを考えておられるのか。現に産業文化会館はなくなるんでしょ。あそこで結構集まりやってるんですよ。それから、中部交流センターって言うて、あんな子供部屋みたいな

小さい部屋、その交流センターの基準とは一体どんなものだというふうに捉えて、あの狭いエリアを考えられたのか。中部交流センターは今プレハブみたいなのが産文の横にありますよね。実際、東部会館にしても、北部の近思会館にしても、それから南部の玉成会館にしても、あんな立派な建物があって、そこでしっかりと行政に関わる、交流センターというのは地域づくり協議会が入っているんでしょ。そういう執務室があって、そしてまた、それに関連した会議、区長さん方に集まっていたくような会議、それをやっぱりするために、ああいうものがある。今現在中部地区では、執務は小さいあそこでやってるんだけど、そういう会議はすぐ隣が産文があるので、あそこの会議室などでやってるわけですね。それが、ここにあんな小さい子ども部屋みたいなものが一つポツンとあって、そこで仮に実務できたとして、それで会議をやるときにわざわざヘリオスとか、体育館へ移動するんですか、そういうことを考えれば、僕は広場とかを作るよりも、もっと駐車場を多少もう少し広めにして、建物、あんな廊下みたいなものを区切って、何の話になるか、足しにもならない、僕は思いますよ。皆さん、そのあたりどういうふうに考えておられるか。それともう一つ、木をいっぱい植えてあるんですが、木を植えてある景観は一見きれいには見えるけども、今、散居村でどんな問題があるかという、木の管理ができないという問題がある。あれが半分近く木で植えて、誰がその木の始末をするのか、木を植えるときは自然にちゃんと何年も立っているものではない。しっかり枝打ちしたり、落ち葉の世話をしたり、そういうことをやってようやくできるのに、その管理もこの後出てくる。だから全てこの計画が、我々とは違う視点で作られているのかもしれないけれども、一見見た感じはスマートでいいんだけど、実際にこの後何年も使っていく。我々、今、自身の自治活動をやっていくためにどうすればいいのかという、その辺、やっぱり中心にしっかり考えてほしいと思うんですが、どうでしょうか。

課長 まず、交流センターの関係、会議室の話ですが、検討会議でもそういうお話がありまして、会議室を設けるのかどうかということも含めて、もともとの当初の発注の際には会議室を設けましょうということは言っていました。そのお話の中で、協議の中でも会議室がどんな使い方しているのか、改めてヒアリングもさせていただかなくてはと思いますけれども、今おっしゃったヘリオスにしても、福野体育館にしても、会議室はいつも満タンではないので空いているという、ある意味、中部の方は他の地区に比べてかなり恵まれた位置にあるということは間違いのないと思っております。その中で、あとは建物を建てるとそれだけコストがかかると、それには当然ランニングコストがかかるということで、それだけ税金を突っ込んで使用料を払っていくということになりますので、その辺のことは改めてこちらでも考えさせていただきたいなと思います。今お聞きしましたので、会議室においては改めてお話をさせていただきたいと思います。

参加者 すみません。今、当局がしゃべるんじゃなくて、皆さんにどう感想がありますかって、今、参加者さんが言われたじゃないですか。そこへ移ってもらわないと。皆さん意見が言えないんじゃないですか。

参加者 私はあなたから回答を聞きたいわけじゃない。皆さんが、私が言ったときに皆さんどう思われるかを聞きたい。

参加者 私は、横町の自治会の会長をしておりますMです。よろしくお願いたします。この案件につきましてですね、やはり今、参加者さんの方からお話がございましたように、横町の町民としては、これは反対という皆さんのご意見でございました。この公園があまりにも、大きすぎる。そう

すると、公園は今までの園芸植物園ですか、大きいのが向こうにある。それをもう少し改修するとか、きちっととなおして、そういうイベント広場なり、いろんな広場に改修をすればいいんじゃないかなというお話を皆さんしておられる。

公園ばかりいくつも必要かという。それからこの街の中でこれだけの木を植えて管理していくなかで、今のこの時期になったら葉っぱがいっぱい落ちているんですよ。葉っぱ。今現在でもこの道の淵に葉っぱがたくさん落ちておる。その清掃すら今ひどくて、皆さんに弱っておられる中で、近所の方はこれは非常に迷惑に、逆になってくるということにならないかなというふうに思います。それと、いろいろとまちづくり協議会というか、あの時には自治振興会か、という中からいろんな検討をした中で、要望書を市に出しておるはずでございます。その時も150人ほど寄っていただいて、Nさんが自治振興会長をしておられた。全体の会長はSさんをしておられたんです。という中で、いろいろと検討した中を、どうですかという皆さんのご意見を聞いた中で、それで走ってくれと、ぜひやっていただけないかというご意見をいただいておりますが、それは全くこの中には入っていないというのは非常に残念なのです。ということも踏まえて、もう少し市民を巻き込んだ中でのお話をしていくということは、非常に大事なことなのではないかというふうに思います。ちょっと呼んで、これを決めて、はい、というようなことではなくして、もう少し市民の意見を真剣に聞いていただきたい。Hさんも、中部のまちづくり協議会の代表として出ていただいております。私、1回会議をやった毎に、Hさんは私のところに、自治会の方の、私、世話しておるんですがね、Hさんがお話に来られる。そのお話を聞いてというのは、もう腹が立つくらいの検討委員会ですか、なされておるということなんですわ。だからその辺も踏まえて検討していくということは、皆さんの話をお聞きしながらですね、やっていくことは非常に大事なことになるというふうに思います。それとやっぱり近場にたくさん業者がおるんですわ。業者というか、こういうコンサルというか、たくさんありますよ。近場の方たちから言っても、そういう人たちから意見を聞いたりして、その中からみんなして集まって検討するというのも、一つの手でないかと思っております。ですから、この公園に関しては全く自分も反対でございます。それから今の建物、これ夢みたいな建物になっておりますけれども、冬にそれがきちんと対応できるのか、それから市民に喜んで使っていただくような状況になっているのか、その辺もやっぱり検討すべきでないかなというふうに思います。以上です。

事業者C すみません。私の方から樹木について少しプラスで説明したいと思います。皆さん今、暑い暑いって言ってますよね。夏暑いですよ。その時にやっぱり木陰あるとホッとしませんか。わかります。落ち葉の話、いろんな市町村からそういう話出てきます。誰が管理するんだ。でも酸素とか作っているのって木なんですよ。当たり前の話なのかもしれないけれども、できないからやめようじゃなくて。

参加者 だから変わりのところに持っていけばいい。

事業者C どこでしょうか。

参加者 さっき言うとおりの、植物園とか。まだこれより広いですよ。

事業者C 公園を作りたいとはっきり言っているわけではなくて、私たちは広場を計画して、見たことがない場所を作らなければ、誰も来ないんですよ。

参加者 あなた、だれも来ないですよと言いますが、だれか来なくちゃいけないんですか。いろんな意見あります。

参加者 住民の意見を聞く場だから、あなた方は喋らないで、住民の意見を聞いてください。説明は最後にすればいい。

事業者 C 分かりました。ちょっと説明した方がいいかなと。

参加者 最後に説明すればいい。これまでそちらからの説明を聞くだけだったんですよ。全然こちらの意見を述べる機会がなかった。この間も私、メティスの方に行った時にも、全然我々の話をする場がなかったでしょ。一方的に、これがいい、あれがいいと。一見美しくて綺麗に見えるんだけど、実際どうなのか。例えば脱炭素の問題とかいろいろあるんだけど、それはもっと別のところでやる時がいっぱいある。そこに木を植えたからそこで脱炭素が解決するんですか。そういう象徴的な建物とは、象徴的な場所を作ってほしいと我々は言っているのではなく、我々中部地区の人たちにとって、やはり自治の中心、それから市民センターもなくなるので、その機能が欲しいということ言っているのに、なんか景観ばかり言われるでしょう。皆さんどうですか。

参加者 もっと他の人も黙っていないで言ってくださいよ。終わってから家帰ってからあやこやりかと言われると困るんですよ。

参加者 発言よろしいでしょうか。Hと申します。この絵を見ていて、多分これ都会の中にあるべき公園なんじゃないかなというふうに私はちょっと思っていました。この周りに全部住宅があって、都会の人たちがここを求めに来る、これは分かるんです。我々はじゃあどうなのという話です。我々が求めているのがこの形なのかと言われると、やっぱりちょっと違うと思います。じゃあ人が集まらないとか云々そうですけど、例えばうち福野町では、例えば人が集まるところで、例えばアミューというショッピングセンターがあつたりします。そういうところには集まりますよね。それ以外に自然に集まる場所、ショッピングセンター、商業施設以外で、自然に人が集まる場所というのはなかなかないです。

例えばここが、じゃあどういう条件なら人が来るのか。例えばこの近くには小学校があります。小学校の下校した子どもたちがここに来る、これは理解できます。それに親がついてくる、それも理解はできます。でもわざわざここに日曜日とかに来るのでしょうか。もっと我々の動線を考えた計画を立てていただくわけにはいかないのでしょうか。我々はここで生活をしているんです。ここは都会じゃないんです。

参加者 いいですか。SさんとMさんが言われたようなもので、中部まちづくり協議会の意見が全然取り入れていないというのはすごく残念な話でありまして、だから中部まちづくり協議会の方できちっと意見集約してもう一度話した方がいいかなというような思いがあります。

参加者 先ほどの名前が挙がったNと申します。まず一つ、市の方にお聞きしたいというか、中部交流センター、70 平米、私の認識では、中部交流センターというのは旧の公民館だと思いますね。近国会館とか。それと一緒になんですよね。昔、平成 26 年に中部の自治振興会の方から、中部公民館を建て直してくれというような話が出て、教育委員会の方では検討しますと予算が付きかけたこともあるんです。この計画で、500 平米のものを検討しますという話になったんです。中部の人口的にはそれが精いっぱいです。というのは、1000 平米ぐらいの方が、産文は 1000 平米なんです。そう思っていたんですけど、この人口では 500 平米しかできないよ、ということがあった。

使用料は、住民の思いではそんな考えていない、中部の人たちは維持費は見んなんかかもしれないけど、それぐらいの方を考えていた。

アンケートでは子育て支援したいということで、小学生帰ってきた頃には、今アルカスの子どもも高学年入れないからB&G行ってますよね。そういうところも行っているんです。それを、そういうところを作ったり、子どもと高齢者が一緒に遊べる場所を作ったり、調理室とか、全部アンケートで、中部アンケートを取って、そういう結果を出たものをまとめたんですね。さっきMさんに言われましたけど、令和2年の8月に発表したときに、アミューで、皆さんが、これで行こうって、事業者Aさんらが書いてあったんですけど、それははっきり覚えております。

それが、自分もまだ地域づくり協議会の会長しているから ORACCHA の会議出た時に、いや、だいぶ変わったな、これ。全然ちゃうなっていうようなイメージはあったんですけど、若い人が一生懸命やってやから、自分らがこれ止めるわけにもいかんし、やってもらえるがやったら、上手いこといくがやったら、いいねえかと思ったんですけど、一回バチャッとだめになったんですよ。お金が高い。でも、やっぱりさっき言われたように、子供の公園は今、猿が通りでも子供いっぱいだから必要だと思うんですけど、ほんまに、でかい公園はほんまに必要なのかなって思いますね。あんまり意味がないような気がします。

参加者 今、ちょっと経緯として、ちょっとご説明だけしたいんですけど。あの、今、Nさん 500 平米言われたけど、今、計画では 70 平米になってますんで、70 平米。なぜこうなったかという、実は、一番最初、市の方から、使用料がかかると言われたんです。地域で払ってくれと、ということで、前回コンサルの方が出されましたよね。その概算でいうと、大体 150 万円ほどかかると。そうすると、1000 件で 1 件あたり 1500 円かかると。今と同じ面積 70 平米でやっても、それだけ 1 件あたり 1500 円かかるといような話もありまして、これは困ったぞと。だからそんなにかいもんは言えんぞということで、まず 70 出しました。その後、市の方と協議しました結果、賃貸料は市の方で見ましよう。条例にそう書いてあったもので、見ましようということになったんですが、お金を管理しておられる財政課の方で、全額出るかどうかわからない。一部住民負担してもらわないかもしれない。一部住民負担するときには、面積広げたら住民負担がどんどん増えるので、最低限の広さとして、今と同じ大きさのものしか要求しなかったわけです。だから、そういった地元の方に負担をかけないようなことを考えて、今の面積になっています。

その代わり、横に会議室を作るよという話だったので、それなら大丈夫ですねと。町づくり協議会の機能は、その会議室を使えばできるのかなというふうに考えて、こういう面積を要望したという経緯があります。以上で終わります。

参加者 子供たちに関わるボランティアに携わっています。子育てしている親御さんが思っておられるのは、1 番は、暑い夏でも、雨降っても、雪降っても、遊べる場所が一番欲しいというのが、南砺市だけではなくて、どの市でも一番要望されていることです。それで、それだけで、その室内遊び場があるだけでも、子育て世代はどんどんと集まってくるというふうに思っています。それで、子育てと関わることとして、子どもの遊び場、400 平米というふうに、子どもの遊び場があるなと思って、最初よかったなと思って見たのですが、盛土をして、起伏のある遊び場を作ってというふうに、かっこいいなというふうにして書いてあるのですが、残念ながら、35 度の夏や雨や雪が降っているときに、そこへ、さあ遊びに行こうと言って、よし行こう行こうと言って集まってくる親子は、

残念ながら、あまりおられないと思います。今、子育てをしている親たちは、射水市とか、それから、河北の方とか、高岡の方とか、そこへ向かって一生懸命車を走らせて、子どもを遊ばせに行っています。それはなぜかという、ふわふわドームはありきではないですが、ふわふわドームがあって、ちっちゃい子供用の遊具があって、小学校向きぐらいの、ちょっとスリルのある大きめの遊具があって、狭い空間であっても、それだけの3点セットが揃っているだけで、津幡の方へ行ったり、森本の方へ行ったり、というふうに親たちは遊びに出かけています。なんか、南砺市がそういう、こういう大きい広場じゃなくても、そのすり鉢状のかっこいいものじゃなくても、子どもたちが集まれるような室内遊び場であれ、外での遊び場であれ、なんかそういう遊べる場所があると、私は賑わいづくりに絶対つながっていくんじゃないかなというふうに思っています。それと、持続可能な実施計画をというふうに書いてあったんですが、朝ジョギングしたり散歩して、昼テレワークして、夜は焚き火や映画してというのは、なんかちょっと絵に描いたらなんかかなみみたいな感じが、ちょっとしなくもなくて、持続可能な実施計画というのが、この福野中部にあって、どんなものなのかなというのを考えていったらいいんじゃないかなというふうに思います。以上です。

参加者 Yと言います。お世話になります。今の絵と同じような感じではないんですけど、安居地区にです、同じようにキャンプもできて、グラウンド機能もあつたりとかするのがあるんですけど、もう誰も行ってなくてですね、草ぼうぼうだというような状況がありまして、福野にやっぱりそんなのはいらぬのかなと思っているのが一つ。それと、今年ですね、元旦の地震の際、避難とかいうところは全然間に合っていなかったですね。この地区でも、南部地区でもですね、防災訓練をやっておりますが、そういうところでですね、活用できる、もしくは実際に避難とかできるような設備も必要ではなからうかと思えます。あれぐらいの小さいトイレでですね、避難された方がどうやって使うんですかね。そういうところを一つ考えていただかないと、今後どんなことがあるか分かりませんので、かっこいいことばかりとってあかんと思います。以上です。

参加者 市の方にちょっと聞きたいんですけども、今、産業文化会館は令和8年の3月いっぱい閉館いたしますね。それで、この今計画のとこいつできるわけですか？いつ頃できるのですか？

課長 計画については、お話を伺いながらですね、今年度中にまずは形にしていきたいということで、この後、どんな形かお認めいただいた最短で言うと、来年度設計に入ってという話になります。来年度設計に入って、お認めいただければ、来年度設計に入って、その後、そういうことになります。

参加者 完成はいつになるのか？

課長 今のところ9年度。

参加者 今ね、私実は産文の管理しているんですけども、先ほど公園の関係で樹木がどうかというような話があったんですけど、今年も雪が降ってきましたね。私、朝早くから雨の中から落ち葉を拾っておったんですわ。ただそういう簡単なもので、こういう樹木は大変に見た目はきれいだけれども、現実にはそんなに甘いものではない。大変である。それとね、産文は今50いくつの団体が利用されているところなのです。それと各区の方で公民館がないものですから、産文で区の行事をやっていると。たくさんの方おられるし、あと障害者の方もおられる、車椅子。それから便所でも、産文は現在、1階の便所はね、男がちょっと使えませんので、あとね、洋式にして市には言ったけど、そしたら市は、首を縦に振らない。もうちょっと住民のことを考えてもらわなきゃあか

んわ。大変失礼なこと言いましたけど。なんせ、皆さんの意見を聞いて、まず負担をかけんようにしてやってもらいたい。以上であります。

参加者 じゃあいいですか。産業界を代表してですね、ちょっとあの、意見を述べさせていただきます。今ほどはですね、皆さん地元の中部の方中心にですね、いろいろと切実な、現実即したお話をいただいたのでありますけれども、我々産業界からしますと、今これ、福野とかね、南砺市に限った話ではないと思うんですけれども、もう本当に人口減少、少子化、担い手不足、もう深刻です。企業をですね、やっている身からすると、本当にその、これがどんどんどんどん進んでいきますと、これね、人口減少というのは、今からどんなに少子化対策を打ったとしても、20年から30年、人口は増えません。ということからすると、企業経営をやっていく身とすると、やはり地元がいかにね、やっぱり、活性化するか、外からの外貨獲得とか、新たに人をどんどん来ていただくような仕組みをやっつかない限りは、企業がここで生きていくのが本当に難しくなる。そんな世の中を想定しています。我々の子や孫の時代、本当に福野が持続可能な街なのかどうか、南砺市のこの地域の中での福野というところが、本当に我々がまだ今は何とかやっていますが、本当に生き残れる地域になるのかということを見ると、このファブリカ跡地というのは最後のフロンティアのような気もするんですよ。ですから、皆さんのおっしゃっていることは非常によくわかるのであります。これを何とか活かして、外貨獲得とか、産業活性化とか、とにかく、人がやってきてお金を落とすようなものにしていかないと、本当にその子や孫の時代どうなっていくのかなというようにもですね、一つ頭の中においてこの議論をしていただきたいなというふうに思うんです。というのも、やはりここに来ておられる方、こうやって見渡してみても、やはり結構年配の方が多くて、これから未来に時間をたくさん持っている若い人たちの意見というのをもっと取り入れて、やはりこのファブリカ跡地のことについて、考えていくということは非常に大切なことではないかなというふうに、南砺市商工会福野支部長、そしてまた、福野建設業協会の会長としてもですね、少しそういう視点で皆さんに考えていただきたいということをお願いして、意見とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

参加者 今Iさんに言われたが、本当にこれがイメージ通りになればそうなるでしょう。ただ、これが本当にトミノさんがずっと今後潰れなくて、この公園が綺麗に維持管理できるという前提、そして魅力のあるものに常に更新し続ける。5年とか10年ごとに何かを変えていって、魅力を再開発してやっていく。であれば続くかもしれません。でも、もしもそれができなかつたら、これ負の遺産になりますよ。だからプラスのものになるのか、負の遺産になるのかということ。子どもや孫の世代に負担になる施設にならないようにするためにはどうしなくちゃいけないかということも大変大事な観点ではないかなというふうに僕は思っているんです。やっぱり理想はすごく高くいいなと思います。いいなと思うけど、大丈夫？この土地利用で大丈夫？いつか住民、それから南砺市の税金、そういったものにかぶさってくるんじゃないのっていうのは何となく頭に浮かびませんか。だから僕はこんなの必要なかなっていうのを言っている。はい、以上です。

参加者 この緑の計画を春、夏、秋、冬で想定したらどうなるかを一回考えていただきたいな。冬になると大変なことになるやろうし、先ほど言われた秋になって大変で、春と夏だけが楽しみではちょっと寂しいな。以上です。

参加者 難しいことはよくわからないので、1点だけ。駐車場なんですけど、30台と30台で、60台というふうに書いてあるんですけども、子育て世代を例えば集めたいとすると、1件につき1台するので、人が集まると、おそらく車は止められないんじゃないかなと思ったので、周りの、上空から見た写真を見ると、隣の保育園とか施設の方には大きな駐車場があるんですけども、30台、30台で本当に人が集まれるのかなというのは不安でしたので、どれくらいの車が含められるスペースが必要なのかなというのも検討いただければありがたいです。

参加者 すみません。私の記憶違いじゃなかったら、先般の北日本新聞に、2060年には富山県の人口は65%に減るといふふうに人口推移が出ているんですよ。そういう中で人を呼ぼう呼ぼうという発想が大体古いんだろうと思う。基本的に人がにぎわう、もともとの話は多分市民センターがなくなって、賑わいがなくなるよねというところから始まった話なんだろうと思うんですね。じゃあ賑わいって何で起きるのかというと、課題が解決できるものがあると、そこは賑わうんですよ。昔、例えば市民センターがあるとそこに行って、例えば年金の相談ができるとか、戸籍が取れるとか、そういう要するに住民の課題が解決できるものがあるとそこに人が当然集まってくるわけで、なんで公園を先に考えなくてはいけないかというのは私は本当に腑に落ちない。それよりも、例えば市民センターとか交流センター、産業文化会館がなくなる中で、その機能をどうやって代わりに作っていく。それとプラス合わせて、せっかく補助金が出るんだから、これから例えばリユースとかそういうものは地球に優しい取り組みが必要になってくるんだと思うし、そういうものを含めた複合施設をまず考えて、それで予算がどれくらいかかるのかをまず見て。悪いけど、その余った、後にね、そのお金でどれくらいの広場ができるか考えたらいいんじゃないかと思うけど、なんで先にこの広場を、いくらかかるか知らないけど考えなくちゃいけないのか、本当に私は腑に落ちません。以上です。

参加者 一番最初には、もっと公共施設、いろんなものを集約して、という話はあったんです。消防の屯所とかも古いし、狭いし、危険だということで、そういったものも入れたいという要望も出ていたのに、これ前の政策推進課の方が言うております、「事業者さんがダメ言われたらダメなのです。」と。相談の余地がなかったのです。だからそういう経緯もあったということを皆さん知っておいてください。それと、ちょっと先の話になるかもしれませんが、このアンケート、応援したい、応援したくないというのは、この事業をしますよということを前提で取るアンケートになっているので、賛成か反対かということで聞かないとまずダメかな、こういう土地利用でいいのか、こういう大きい公園を作る土地利用でいいのかどうかを、やっぱりまず意見をはっきりさせたほうがいいと思うんですね。応援したくないというのは、応援したくないけど勝手にあんたら進めるんだろと。反対と言っていたら、これはやめてくれという意思表示。だからちょっと意図的な部分がちょっとここに出てくる。何気なく作られたのか、それはわかりません。でも、ここは、この公園というもので、この大きな公園を作る土地利用でいいのかどうか、その賛否を僕は聞かないと、この後の検討委員会で皆さん議論できないんじゃないですか、と僕は思います。分からないという方、たくさんおられるかもしれませんが、今日聞いたぐらいで、この分からない人の取り扱いをどうするか、賛成として入れるのか、反対として入れるのか、そういうようなことも後から教えてください。以上です。

参加者 アンケートに名前要らないと思います。今のHさんの質問にプラスなんですが、私もどこへチェックしていいか分からないんですよ。応援したい応援したくない。これは、もし仮に応援したくないとしたときに、富山紡績工場跡地の利活用をしないということになってしまうんですよ。私は利活用はしてほしいんです。そしたら応援したいとなると、今のこの計画を応援したいとなってしまうのではないかという見方があります。だから僕はこれ、チェックできないと見たのですがどうですか。この通りでいいというので応援したい、応援したくないというふうなことを考えておられるのか、これ以外の案が出てくれば応援したい、応援したくないなのか、そこがよくわからなくて、僕はこのアンケートには答えられないなと思ってさっき見てました。前回はこんなアンケートを出ていたんです。あの時は、利活用してもらわないと困るから、内容に関わらず私は応援したいとチェックしました。だけど、今回話聞いてもし応援したいとしたら、そのまま進むとなると、それは弱る。

課長 ありがとうございます。アンケートにつきましては、大変申し訳ないんですが、自由記載の方で書いていただきたいと思っております。と言いますのは、QRコードで回答いただく方はこのような状態で回答いただくので、自由記載でお願いをしたいと思っております。それとですね、いろいろご意見いただきましたので、また検討会議に持ってまいります。一つは行政として、申し訳ないんですが、もともとお示ししておいた整備にかかる経費というのは5.2億円という数字をお示していたところがございますので、そういった中で今は、民間の事業者さんが自分たちで数億円入れても、この事業は地域のために何とかやりたいということでございました。今回、いろいろとお話をさせていただきますが、どんな形で事業化できるのか、あるいは違う形になるのかというのは、またお話をさせていただきたいと思っております。

参加者 5.2億円はどこに使われるのか言わないと皆さん分からないよ。

課長 広場と公共施設。

参加者 公共施設をつくるのは5.2億円にあるんですか。

課長 一部で平たく入れていこうか、今その方法を、それは事業計画の中でどのように回していくかということは今から話していますので、候補としてはそういう予定になっています。ただ、今、それを検討委員会の中でもお話をさせていただかないと、というような状態です。

参加者 だって今まで検討委員会で計画出ていない。

課長 まだそこまで入れないから。

参加者 そしたら、税金が入るということは、当然、家賃もグッと下がるということですか。

課長 家賃を下げた方が全体としていいのか、もともと民間の方で投資したいということなんですけど、ちょっと細かい話ですが、補助金を入れることで投資できなくなる可能性がある。その辺が、事業がうまくいく、いかないというのは非常に微妙なところがありますので、その辺を改めてご説明させていただいて、検討委員会で話をさせていただきたいと思っております。

参加者 でも、皆さん会社が3つになることはご存じでないですよ。だから、今のだったら全部ひっくり返して採算取れるかどうかという話に聞こえるじゃないですか。でも、一応、僕ら説明を受けているのは、あそこの公共施設の方だけで一つ採算取ればいいということでしたよね。

課長 結局、公共施設側に民間の方も投資をするということになれば、これがあってのことになりますので、これがない状態での投資というのではないと思いますので、その辺を含めて改めてこちらのお話もしながら。

参加者 そこら辺すりあわせがうまくいっていないのではないか。

事業者A 今、いろいろと話を聞いてまして、全然スタートラインが皆さんそれぞれ違って、いろんな意見が出ていると思うんですけども、さっきNさん、アミューでやられたのはいつでしたっけ？

参加者 令和2年8月です。

事業者A 僕もこれ、中部交流センターとか市民センターをどうするかという話ではなくて、しかもこの紡績跡地には公共施設は一体作りませんと。今回の計画もそうなんですけれども、ランニングコストに関しては、一切市は出しませんよと、今回のプロポーザーに入っていない要件とかが、いろいろある条件の中で作ってきた計画なんです。

参加者 ただ、法律で、公民館は市町村が設置するって。

事業者A だから、別にそれをここに作らなくてもいい話なんです。だから、別にそれをここで話すから、おかしい話になるんです。南砺市が整備するのであれば、5.2億円に入らなくてもいい話じゃないですか。そもそも、これはそういう目的のためのお金じゃない。そもそもが。だから、市が整備するのであれば、別の場所でも今の場所でもいいんですけど、整備すればいいだけの話。そこはずれてる、議論する中で。

参加者 いやいや、皆さんの認識と全然違うよ、あんたらの認識。

事業者A だから違うんです。さっきのスタートがまず違うよという話をしている。

参加者 なんでこんなもん開くんだよ。集まる理由がない。こんなもん。勝手にやって勝手に作ればいい。

事業者A そういう話なんですよ。

参加者 南砺市どういう認識なの。

事業者A で、今、公共施設っていうのは、公共施設の再編計画どうなってるかというのと、産文の機能は継続しないっていう。中部公民館と市民センターは、この会議によるってなってるんですけど、その前はもうヘリオスに集約するっていうふうになってる。それをこの話が出てきたから、この中に入ってるだけで、だからそもそもの話が違う。

参加者 南砺市そんな話だったのか。

事業者A いやいや、私ずっと検討会議の場で話しましたよ。

参加者 中部のことを考えていない。

参加者 公共施設整備しないのなら話にならない。公共施設せんのやろ。

事業者A 公共施設ありきの話ではない。ないし、今計画しているのは公共施設ではない。公共機能を持った民間の施設を計画している。

参加者 民間の施設なら税金使わなくてもいいのでは。

事業者A 税金使わずに民間で建てる計画にはなっています。

参加者 だから、なんでみんな呼んだんだ。自分たちでやられ。その代わりにここの者、誰一人そこにかんぞ。

事業者A 南砺市さんの説明もそんなこと言ってない。ここには公共では作りませんよ。作るんだったらこの5.2億円の中でやってくださいねという条件。その外だったら別にそれは関係ないですけ

ど、ただ今の中部公民館は令和 27 年まで使えますという計画になっています。あと 20 年はあのままという。

参加者 5.2 億円の補助金でもらって作るわけですよね、この跡地で。

事業者 A そうです。

参加者 そうしたら当然この市民センター、交流センターとかでも、プロポーザルの条件に入っているんじゃないですか。

事業者 A プロポーザルの条件に入っているんですけど、公共施設ではない。

参加者 公共施設ではないけど、公共機能のものを作らなきゃいけないんですよ。プロポーザルの条件に入っているんだから。

事業者 A そうです。だから、なんとはいえいいのか。

参加者 公共施設とは言わないけど、公共機能が入る建物は作らなくちゃいけないっていう、計画に入れなさいねっていう話ですよ。それでいいですよ。

事業者 A はい。ただ、そもそも、そもそもの話は違うんです。だから公共施設ありきっていう、市民センター、交流センターを作るという話ではない。

参加者 でも ORACCHA 構想にしても何にしても、すべて公共施設がちゃんとそこに位置付けられてきているから、皆さん、そこで納得しておられたんじゃないのか。だから、公共施設については、廊下もないし、外に廊下みたいなものがついていたけど、雨降ったらどうするのかな、雪降ったらどうするのかな、雪って吹き込むがになど思ったり、いろんな細かいことは言わなくていいなとか思ってたけど、公共施設に対しての皆さんの使い勝手とか、そういったことはあんまり考慮されていないので、いや弱ったなというのの一つありました。

でも、今、公共施設について、自分たちは、そこはなしでというような感覚で計画しておられるとしたら。

事業者 A いや、なしではないです。だから、それをいかにして民間で成り立たせるかという計画を今作っている。

参加者 そしたら、公園で人が集まってきたら、公共施設の部分にお金がそれだけ入るわけ？入らんやろ？事業者 A くんたちが儲けたお金が公共施設の維持管理に入らんでしょ。

事業者 A 入らないですけど今それを広場の部分の維持管理に充てる。

参加者 広場のための儲けを出そうとしているわけでしょ。

事業者 A 違います。

参加者 公共施設の管理ではない。

事業者 A そもそもの一丁目一番地に話してましたけど、この場所のその賑わいとか、稼ぎが、街の中に広がっていくために我々やるし、稼ぐって言うてるのは我々が稼ぐという意味ではなくて、地域として稼いでいこうという話をしている。

参加者 すみません今から税金を払い続ける若い者なんですけど、公共施設、そこに施設、自分も別にいらなないなと思ってまして、今ある施設のどこか使ったらいいんじゃないですかね。そんなわけにはいかないんですか。

参加者 いいと思います。

参加者 今はっきり最初に言われましたけど、広場にそのランニングコストをすべて民間の企業さんで稼がれるというのであれば、それは応援したいなというふうに思いますし、実際自分たちを子どもを連れて遊びに行くときにやっぱり、正直もう、砺波イオンですとか、やっぱりそういうところに遊びに行ったりするので、近くにそういう子育てができる場所があるのは素晴らしいなというふうに思うので、今言われたように地域の公共施設はどこかに集約されたらいいと思います。

参加者 どこですか。

参加者 いや、それはわかりません。すみません。自分、最近引っ越してきたばかりなんで、それはわからないんですけど、別に新たなものを作る必要って別にないんじゃないかなというふうに思いますし、この資料の中に、ここに集合住宅ってあったんですけど、自分はそれこそここが活性化、それこそどうなるか分からないんですけど、分譲すればいいんじゃないかなと思ったりするんですけど、そういう話はないんですかね。人が増えればとりあえずいいんじゃないかなと思ったりするんですけど、すみません、今までの流れ分からずに質問して申し訳ないんですけど。

参加者 だから分譲もいいんじゃないですか。

参加者 いや、当初は、もみじ野団地を持ってくるような話にしておらなだけ。

課長 市営住宅の話。市営住宅はここで建てると、市営住宅に入るぐらいの金額じゃない、高額になるもので、住宅自体はここではやることはないということとして、そういうふうに決めている。今のもみじ野団地を持ってくるということは、無い方向で今話はしている、決定ではありませんが。

参加者 多分、諸先輩方は、自治されて来られている方なので、公的なセンターとか、中部交流センターのこととか、現実的に必要なことを言っておられるのは、非常に分かるんですが、さっき言っておられた方で、自分も若い側としては、基本的には未来志向でやりたいなと思うので、現実的に必要なところは確かに分かるので、現実的な実務の部分は、言われるところは分かるんですけど、別になかったらなかったと考えることができることもあるし、あとは多分、一番お金の問題があつてのこの、現状いろいろ計画が変わってきて、最初の頃考えとった頃と、今の状況ってお金の面が全然違うので、その中で考えられていることだと思うので、それをもとに話はすべきだと思うので、いろいろ入れたい気持ちはいろいろわかるんですが、未来を見た上でどうなったらいいのかなというところは、ここにおられる方もいろいろ思っておられると思いますけれども、未来というのを基本的な見方として考えたらいんじゃないかなと思います。

参加者 これだけ広いものが必要だと思うか。

参加者 広場に関してのサイズ感はちょっとわかんないです。でもさっき、参加者さんが言われていたみたいで、子どもの室内のやつは、自分、室内の遊び場、網とかボルダリング系のやつはあったら嬉しいなというのがあります。あと拡張性があるのはちょっと嬉しいなというか、10年スパンでいらなくなったら削る、欲しくなったら伸ばせるっている、拡張的な発想はすごくいいなと思うので、公園機能も多少広場のサイズ感とか検討があるかもしれないんですけど、これでもやっぱり施設と広場がセットになっているというのが南砺市にない、いい感じの広場と施設でここが見えるというのあまりないのかなと思うので、ここはその福野の地理的な条件であったり、町とのつながりを考えるときにはこの施設感はやっぱりあって、若干ギャンブラーなところはあるかもしれないんですけど、ありなんじゃないかなという気はします。でも、これはわかんないですよ。正直多

分今おられる方もわからないし、自分ももうちょっと大きくなって初めて見えてくるし、正直、中身は若い人というか、おる人が作らないといけないことなんで、その発想が前提かなと。

参加者 先ほどから施設に関する話がたくさん出てきているのは、実際、まちづくりのところで活動されている方にしてみたら、すごい不便だということをお願いということだと思います。それと、子どもさんがいろいろ優先していただきたいというのも、当然分かる話で、南砺市の中で未就学の子どもがたくさんあるのが福野地区だということですよ、市の方。ということは、福野は南砺市の中でも将来がまだ見えるのかなという感じで、もう一つは、宅地ができるところも結構じゃんじゃ埋まっていく意味では、南砺市の中で、福野は将来性があるんじゃないかなという意味を踏まえて、いろいろ考えていただきたいなと、最後にちょっといい話を入れてみました。

参加者 今、子どもさんの数の話ですが、10年後、福野以外の地域は学級数がほとんど減ってきます。城端は1クラスのところが出ています。5年後、10年後には全部1クラスになる。福光の方も、西と東に分かれています、それぞれが2クラスの維持は難しいというような状況で、今、統合しましょうという話、福光地区、城原地区、今、一生懸命話しておられます。

で、福野は今後10年間はずっと3クラス続くんですよ。それぐらい、児童数の減り方が非常に少ない。人口の減り方も非常に少ない地域です。という面では、中間人口とか、それからここにある市民センターの利用数が多分南砺市内で、福光の次に多い地域になると思います。福光はどうしても本庁舎ですから、そこにたくさんの方が行かれますから、これは一番だと思います。その次は福野地域の市民センターになるのかなということは考えられます。

コンビニでできるじゃないかというのはありますが、なかなかコンビニでできないことも結構本当はあるので、何でもかんでもコンビニではできないと思うので、そういうような情勢で10年後ちょっと見ていかれたらいいかなと思います。

課長 いろいろな意見をいただきましたので、改めてこちらでも整理させていただきたいと思います。話をさせていただいて、事業者とも含めて内部で検討して、検討会議の方でも意見交換をさせていただきながら、これからのことをどういう形でいくのか、どのような形で進むのかというのを話をさせていただきたいですし、あといただいた意見の中で回答できるようなものをまた整理させていただいて、ホームページか何かの形でお知らせできるような形で回答を入れていきたいと思っています。

はい。もしご意見、これでよろしければ一旦ここで締めさせていただきたいんですが、どうでしょうか。

参加者 議事録は出ますか。

課長 議事録はホームページで公開します。できる限り早く。

参加者 すみません。私、6区の区長してます。Mと申します。一つだけお伺いしたいのですが、この丸い形の2棟ある民間収益施設というのは、どんなものが入るのかというか、どういう予定なのかという予定はもう頭の中には描いておられるのでしょうか。

事業者 A こちらのほうは、今、まだ具体的な名前は挙げられませんが、飲食店であったりとか宿泊施設を想定しております。

参加者 はい、わかりました。いつも、私たちも結構高齢者なんで、夕方になると、今日夕飯作るのめんどくさいから、ちょっと食べに行きたいなということがあったり、子育てしている若いご夫婦なん

かも、今日はちょっと疲れたから、どっか食べに行こうか言うときに、ほぼ道の駅みたいなところだと5時に終わってしまって、すごいストレスがあるんですね。あと福野町の中で言うと、今日行ってやってるのかやってないのかみたいな感じがあったり、遅くまでやっていると言うと、ラーメン屋さんか焼肉屋さんしか思い浮かばない。あと、ここ一番大事なスペースの核になると思うんですけど、例えばやっぱり名前を挙げてしまうと、コーヒー。ターリーズとか、スタバとか、あるいはこの辺の地域に合わせれば、コメダコーヒーとかですね、あるいは夜、何か食べたいなという時は、やっぱりココスとかガストとかですね、そういうのがあればいいんですけど、砺波から城端線に沿ってこっちへ向かってくると、そういったものは何もない。非常に寂しい。ついこの間までは、マックが福野にありましたけど、それも撤退してしまって、非常に寂しい思いです。私たちはもう70近いんですけど、たまにはね、マックに行って食べたいなと思うんですね。だから非常に寂しいです。だからこの民間の収益施設というのが非常に核になると思うんですけど、ここちょっとよろしく願います。ちょっと今まで質問されていた、なんか、重要な観点からの質問ではないですけど。

参加者 2点だけちょっとお願いしたいと思います。ヘリオスまでの道をきれいにしていただきたいのが1点と、県道を渡るとき、県道を渡ることを考えていただきたい。そうしないと、東側の地区の人たちがすごい危ないかなというふうに思っております。以上です。

課長 いろいろなご意見をありがとうございました。またまとめさせていただいて、議事録の形で出させていただきますと思います。よろしく願います。また、改めて検討委員会の方でも話させていただきますながら、方向性も詰めてまいりたいと思います。それでは、本日はこれで締めさせていただきます。ありがとうございました。